

2023年1月新着情報



海外／国際機関で行われている／行われた興味深い
イベント／取り組み

- **国連:高齢者虐待に関する意見を募集(2023年3月1日まで受付)**
 - <https://www.ohchr.org/en/calls-for-input/2023/report-violence-abuse-and-neglect-older-persons> (意見送付方法の案内や詳細情報へのリンクあり)
 - <https://www.age-platform.eu/policy-work/news/contribute-un-consultation-elder-abuse>
 - 高齢者による人権享受に関する独立専門家は2023年、人権理事会へのテーマ別報告で、高齢者の暴力、ネグレクトおよび虐待に重点を置く。この報告では、本テーマに関連した法的保護基準や被害の現状、様々な他の要因(ジェンダー、人種、障害など)との関連性について分析するほか、優れた対応策の紹介や今後に向けた提言も行う予定である。この報告書作成にあたり、参考となる意見や情報を広く募集している。特に、優れた実践に関する具体的な情報を歓迎しているが、他にも関連の情報、報告書、法律などがあれば共有いただきたい。意見や情報は1,500ワードを上限として、英語、フランス語またはスペイン語で提出可能。受付期間は2023年3月1日までである。
- **国連:高齢化に関するマドリッド国際行動計画(MIPAA)第4次レビューのハイレベル・パネルディスカッション(2/8)**
 - <https://www.un.org/development/desa/ageing/news/2023/01/high-level-panel-discussion-on-the-fourth-review-and-appraisal-of-the-madrid-international-plan-of-action-on-ageing/>
 - <https://www.un.org/development/desa/ageing/fourthreview/globalreview.html>
 - <https://www.un.org/development/desa/dspd/united-nations-commission-for-social-development-csocd-social-policy-and-development-division/csocd61.html> (国連第61回社会開発委員会会議)
 - 第2回高齢者問題世界会議が2002年に開催されてから20周年となる2022年、MIPAA実施状況の第4次レビューが行われた。各国・地域がレビューを行い、国連事務総長がそれらを総括して報告書にまとめている。その中で特に際立った点として、MIPAA実施状況の格差が地域内外で非常に大きいということが挙げられる。国連第61回社会開発委員会会議の一環として、2月8日にニューヨークの国連本部で行われるこの会議では、レビューについて更に情報を提供するとともに、加盟国やNGOなど参加者間での意見交換を目指している。



ILC-Japan または ILC-GA メンバーが関わった／関わっている イベント／取り組み

- (再掲・情報一部追加)英国・日本: Getting to grips with ageing: Can Japan and the UK learn from each other?(高齢化と向き合う: 日本と英国はお互いから学びあえるか?)(2023/2/9 日本時間午後5時~6時30分)
 - <https://ilcuk.org.uk/getting-to-grips-with-ageing-can-japan-and-the-uk-learn-from-each-other/>
 - 日本は世界唯一の超高齢社会であると同時に、比較的健康的な国でもある。英国と日本は、お互いから何を学べるだろうか? また日本が次回 G7 の議長国を務めるにあたり、このチャンスを私たちはどのように生かせるだろうか? ILC-UK と日本の政策研究大学院大学(GRIPS)が2月9日(木)に開催するオンラインイベントでは、上記のようなテーマについて検討していく。上記の URL から申し込みが可能で、予定されている講演者は以下の通りである。
 - ◇ 小野太一博士(GRIPS)
 - ◇ 松岡洋子教授(東京家政大学)
 - ◇ Arunima Himawan 氏(ILC-UK 上級保健研究主査)
 - ◇ Judith Phillips 氏(スターリング大学副学長、老年学教授)



海外での興味深い取り組み・ニュース

- 米国: ゴールデングローブ賞で熟年女優が数々受賞—だがエイジズムは根強く残る?(1/10 ~)
 - <https://www.aol.co.uk/entertainment/golden-globes-angela-bassett-salma-105131710.html>
 - <https://www.peopleworld.co.uk/movies/golden-globes-golden-globes-2023-jennifer-coolidge-michelle-yeoh-3982256>
 - <https://theconversation.com/older-women-are-smashing-it-this-awards-season-but-ageism-is-far-from-over-198110>
 - 米国の映画やテレビ番組に贈られるゴールデングローブ賞の授賞式が、2023年1月10日(現地時間)に行われたが、特徴的だったのは、受賞候補女優たちの顔ぶれが例年になく「円熟」していた点である。ミシェル・ヨー(60歳、主演女優賞受賞)やジェニファー・クーリッジ(61歳、助演女優賞受賞)、アンジェラ・バセット(64歳、助演女優賞受賞)をはじめ、サルマ・ハエック(56歳)、ジェイミー・リー・カーティス(64歳)など、50歳以上の受賞候補が多く見られ、レッドカーペットや受賞の舞台上で存在感を示した。受賞スピーチでも上記の女優たちは、遅咲きでも諦めないことの大切さを強調し、これまで40歳が「賞味期限」と見られていた女優業の中で、年齢を重ねながら輝く姿を見せていた。しかし、これで業界のエイジズムが解消されたとは言えない、という懐疑的な意見も聞かれ、そ

もそも「この年齢にも関わらず美しい」という表現自体に、エイジズムの根深さが映し出されているという指摘もある。男優では、同様の表現はあまり見られることはなく、女優たちが、ジェンダーと年齢の両面で大きな影響を受けていることが示唆される。エイジズムを撲滅するために、メディアも言語表現やイメージなどを通じて大きな責任を担っている。

- **米国:ナーシングホームは現在も、人材不足が医療セクターで最も深刻(1/19)**

- <https://www.ahcancal.org/News-and-Communications/Press-Releases/Pages/Data-Show-Nursing-Homes-Continue-to-Experience-Worst-Job-Loss-Of-Any-Health-Care-Sector.aspx> (詳細グラフへのリンクあり)
- コロナパンデミックの余波で、ナーシングホームではかつてない人材不足が現在も続いていることが、BLS(米国労働統計局)のデータで明らかとなった。このデータによると、全国のナーシングホームはパンデミック中(2020年2月~2022年12月)に、21万の職員を失った。職員数は、1994年以来最低レベルである。2022年には職員数の増加が予測されたが、そのスピードは想定よりも遅く、現状のペースが続けば、パンデミック以前の職員数レベルへ回復するには2027年までかかると見込まれる(当初の予測は2026年)。医療セクターの中でも、ナーシングホームの人材不足は最も深刻であり、他の業界で職員数がパンデミック以前のレベルに戻る中、困難な状況が続いていることが示された。

- **米国:社会的孤立と認知症リスクとの関係が調査で明らかに(1/19)**

- <https://www.npr.org/2023/01/17/1149512488/social-isolation-dementia-risk-study>
- https://agsjournals.onlinelibrary.wiley.com/doi/epdf/10.1111/jgs.18140?utm_term=JGS&utm_campaign=WRH_1_9_23&utm_medium=email&utm_source=publicity (研究論文1)
- <https://agsjournals.onlinelibrary.wiley.com/doi/epdf/10.1111/jgs.18179> (研究論文2)
- 社会的に孤立した高齢者は、孤立していない高齢者よりも認知症発症リスクが27%高いという結果が、最近発表された論文(上記「研究論文1」)で示された。この調査は、米国の地域在住高齢者5,022人を対象に行われ、そのうち23%が社会的に孤立していた。9年間の追跡期間中、定期的に認知テストを実施した結果、参加者全体の21%で認知症が発症した。しかしデータを細かく見ると、社会的に孤立していた人では発症率が26%だったのに対し、孤立していない人の発症率は20%未満だった。関連データを用いた別の論文(上記「研究論文2」)では、携帯電話などテクノロジーへのアクセスが、高齢者の社会的孤立の予防に役立つことが示されている。

- **米国:高齢者への経済的搾取と闘う140の金融機関をAARPが認証(1/26)**

- <https://press.aarp.org/2023-01-26-AARP-recognizes-140-financial-organizations-for-their-commitment-to-fighting-financial-exploitation-a-growing-issue-since-the-pandemic>
- <https://www.aarp.org/ppi/banksafe/> (BankSafeの詳細情報)
- 米国の主要高齢者団体AARPでは、金融業界が消費者のニーズに応え財産をより効果的に守れるよう、全国の金融機関などを対象にBankSafe Initiativeを実施している。このプログラムは主に「経済的搾取の予防」「家族介護者のエンパワーメント」「認知症の人

の支援「銀行サービスへのアクセス向上」という4本柱からなり、従業員へ無料で研修プログラムを提供しているほか、上記ホームページでも様々な関連資料を紹介している。AARPではこのプログラムで、対象機関への認証制度も設けており、現場従業員の80%以上がBankSafeの研修を受け、また経済的搾取が疑わしい場合に報告する方針を実施している場合に授与される。AARPでは1月26日、この認証を2022年に受けた140の金融機関等を発表した。高齢者を狙った経済的搾取は、コロナパンデミック発生以降2倍以上に増えており、金融機関の役割は更に重要性を増している。また搾取の手口なども変わってきているため、AARPでは研修内容を改善し、新たな事例やアニメーション動画などを採り入れた。

● **米国:AARP マガジンが第21回 Movies for Grownups® Awards(大人の映画大賞)を発表(1/28)**

- <https://press.aarp.org/01-28-2023-AARP-The-Magazine-Celebrates-the-21st-Annual-Movies-for-Grownups-Awards> (リリース)
- <https://www.aarp.org/entertainment/movies-for-grownups/annual-film-awards.html> (詳細情報ページ)
- AARPでは20年以上前からMovies for Grownups® Awardsを通じて、50歳以上の大人による、大人のための映画を支援しており、業界のエイジズムと闘い、高齢視聴者の共感を呼ぶ映画やテレビ番組作りを後押ししている。1月28日には授賞式が行われ、俳優のアラン・カミングが司会を務めた。上記の詳細情報ページは、授賞式レッドカーペットのベストドレッサーや受賞者の詳細リストなどにもリンクされている。主な受賞者は以下の通り。
 - ◇ 功労賞:ジェイミー・リー・カーティス
 - ◇ 作品賞:トップガン マーヴェリック
 - ◇ 主演女優賞:ミシェル・ヨー(Everything Everywhere All at Once)
 - ◇ 主演男優賞:ブレンダン・フレイザー(ザ・ホエール)
 - ◇ 助演女優賞:ジュディス・アイヴィー(ウーマン・トーキング 私たちの選択)
 - ◇ 助演男優賞:ジャド・ハーシュ(フェイブルマンズ)
 - ◇ 監督賞:バズ・ラーマン(エルビス)

● **米国:映画館での鑑賞を楽しむ高齢顧客数がパンデミック前のレベルを超える(1/31)**

- <https://press.aarp.org/01-31-2023-Comscore-AARP-Study-Shows-Older-Audiences-Movie-Attendance-Has-Surpassed-Pre-Pandemic-Levels>
- AARPが委託した調査では、45歳以上で映画館での鑑賞を楽しむ顧客数が、2019年よりも5%増えていることがわかった。2022年のデータでは、この年齢層の顧客が特に多かった映画として「トップガン マーヴェリック」(観客全体の40%近くが45歳以上)、「エルビス」(45%)、「ダウントン・アビー/新たなる時代へ」(63%)、「チケット・トゥ・パラダイス」(48%)、「ザ・ロストシティ」(29%)が挙げられた。

● **中国:人口が61年ぶりに減少し、出生数は初の1,000万人割れ(1/17)**

- <https://edition.cnn.com/2023/01/18/china/china-population-drop-explainer-intl-hnk/ind>

[ex.html](#)

- <https://www.npr.org/2023/01/17/1149453055/china-records-1st-population-fall-in-decades-as-births-drop>
- http://www.stats.gov.cn/english/PressRelease/202301/t20230117_1892094.html（中国政府発表）
- <https://www.jetro.go.jp/biznews/2023/01/7fbaf27ad202344e.html>（日本語記事）
- 国家統計局の発表によると、2022 年末時点の人口は 14 億 1175 万人で、前年から 85 万人減少した。人口減少は 1961 年以来、61 年ぶりとなる。出生数は 956 万人で前年比 107 万人減となり、1949 年の建国後、初めて 1000 万人を下回った。中国政府は 2016 年にすべての夫婦に対して第 2 子、2021 年に第 3 子まで持つことを認めたが、2017 年以降、出生数は減少を続けている。一方、死亡数は 1041 万人と前年から 27 万人増加し、2 年連続で高い伸びとなった。65 歳以上の人口は 2 億 978 万人で、高齢化率は 14.9% となり、予測よりも速いペースで高齢化が進んでいる。出生数の低下原因について専門家は、妊娠適齢期女性の減少や初婚・初産年齢の上昇、コロナパンデミックの影響、子育てのコストが高すぎることを挙げている。

● **韓国:高齢者の貧困率は減少しつつも、OECD 平均より大幅に高い傾向が継続(1/19)**

- https://world.kbs.co.kr/service/news_view.htm?Seq_Code=175282
- <http://m.koreaherald.com/view.php?ud=20230119000191>
- <https://jp.yna.co.kr/view/MYH20230119004900882>（日本語記事）
- 韓国における 65 歳以上の貧困率は、2021 年に 37.6%であり、減少傾向が続いていることが最新データで示された。高齢者の貧困率は 40%台が続いていたが、2020 年からは 30%台となっている。高齢者の貧困率低下要因の一つとして専門家は、2014 年 7 月より導入された基礎年金制度を挙げている。しかし OECD 諸国での平均は 13.5%となっており、韓国の高齢者は現在も厳しい経済状況に直面し続けている。また性別で見ると、男性は 31.3%だったのに対して女性は 42.6%であり、特に女性にとって厳しい状況が浮き彫りとなった。

● **オーストラリア:最新の人口データ発表ー出生率がパンデミック前のレベルに回復する一方、人口全体は減少・高齢化の傾向(1/1~)**

- <https://www.smh.com.au/politics/federal/fertility-rate-bounces-back-to-pre-pandemic-levels-20230101-p5c9pk.html>
- <https://www.abc.net.au/news/2023-01-02/baby-boom-australia-post-covid-fertility-rates/101822698>
- <https://www.abc.net.au/news/2023-01-05/australia-population-statement-key-takeaways-shrinking-outlook/101830454>
- <https://population.gov.au/publications/statements/2022-population-statement>（政府発表の年次人口統計報告サイト）
- 1 月 6 日に、政府による年次人口統計報告が発表されるのに先立って、様々な人口関連データが紹介された。まず合計出生率を見ると、オーストラリアでは 2020 年に史上最低の 1.58 を記録した後、2021 年には 1.66 まで回復した。しかし専門家は、長期的に大幅な

出生率の上昇は見られないだろうと予測しており、その背景要因として女性のライフスタイルが変化している点を挙げている。また将来的な人口については、コロナパンデミック以前の予想と比較して、減少と高齢化が顕著になると見込まれる。この主な要因は、パンデミックでの国境封鎖による移民の減少である。人口がパンデミック以前のレベルへ回復するには、2033年までかかるとみられる。年齢中央値を見ると、2020～2021年は38.4歳だったが、2032～2033年には40.1歳まで上昇すると予測される。



海外／国際機関で最近発表された法律・規則・提言など

- **フランス: 政府が年金改革案の骨子を発表－受給開始年齢引き上げ反対で大規模ストライキへ(1/10～)**
 - <https://www.euronews.com/2023/01/10/france-to-push-back-retirement-age-from-62-to-64-in-controversial-pension-reform>
 - <https://www.jetro.go.jp/biznews/2023/01/e5a4c85ff7135792.html> (日本語記事)
 - <https://www.cnn.co.jp/business/35198846.html> (日本語記事)
 - フランスのエリザベット・ボルヌ首相は1月10日、年金の受給開始年齢を現行の62歳から64歳に引き上げることを柱とする、年金制度改革案の骨子を発表した。2023年9月から受給開始年齢を毎年3か月ずつ引き上げ、2030年に64歳とする。エマニュエル・マクロン大統領は、受給開始年齢を65歳に引き上げる年金改革を公約に掲げていたが、国民議会(下院)で議席が過半数に満たない与党グループから成る政府は法案採択実現に向け、同年齢を64歳とすることで譲歩した。フランス民主主義労働総同盟(CFDT)のローラン・ベルジェ書記長は「年金に関する過去30年間で最も厳しい改革の1つ」と非難し、労働総同盟(CGT)のフィリップ・マルティネス書記長は「同法案を通さないことを決意、議会だけで通るものではない」と述べた。政府は国民に対し、この案は年金基金の赤字に対処するために必要な措置と説明したが、生活費が上昇する中で労働者の怒りを買った。この計画へ反対する8つの大手労組は、フランス各地で19日にストライキを実施するよう呼び掛け、その結果、鉄道などの公共交通機関のサービスは大幅に乱れ、多くの学校が休校となった。CGTは、全土で200万人が200超のストに参加したと推定している。
- **シンガポール: 保健省が2023 Action Plan for Successful Ageing(サクセフル・エイジングに向けた行動計画2023)を発表(1/30)**
 - <https://www.moh.gov.sg/news-highlights/details/launch-of-the-2023-action-plan-for-successful-ageing>
 - <https://www.moh.gov.sg/docs/librariesprovider3/action-plan/2023-action-plan.pdf> (全文)
 - <https://www.jetro.go.jp/biznews/2023/02/3037217d7abf9b0e.html> (日本語記事)
 - 高齢化閣僚委員会(MCA)が1月30日に発表した同計画では、現在および未来のシニアの多様なニーズや願いへ応えることを目指しており、様々な民間および公的セクター

による取り組みが計画されている。政府は 2019 年より 5,000 人を超える人びとと関わって、フィードバックを採り入れるなどして、この計画の共創に取り組んだ。その結果、計画では人びとが自らのエイジングを主体的に捉えられるようエンパワーすることに重点を置き、取り組みの柱として以下 3 つの C を打ち立てた。

- ◇ Care(ケア): 予防医療、アクティブエイジング、ケアサービスなど
- ◇ Contribution(貢献): 就労、ボランティア活動、学習など
- ◇ Connectedness(コネクション、つながり): 家族や社会とのつながり、世代間関係、物理的・デジタル面での環境整備など



海外／国際機関で最近発表された／近日発表される 報告書・ガイドブックなど

- **国連: UNDESA World Social Report 2023: Leaving No One Behind in an Ageing World(世界社会情勢報告 2023: 高齢化する世界で誰一人取り残さない)(1/12、国連報告書)**
 - <https://www.un.org/development/desa/dspd/2023/01/world-social-report-2023/> (全文へのリンクあり)
 - <https://www.un.org/development/desa/dspd/world-social-report.html> (全文および記者会見動画へのリンクあり)
 - <https://news.un.org/en/story/2023/01/1132392> (国連ニュース)
 - https://www.unic.or.jp/news_press/info/46076/ (日本語記事)
 - 人口高齢化は世界中で起きている現象であり、平均寿命の伸長と出生率の低下は、あらゆる国や地域で起こると予測される。MIPAA の 20 周年となる 2022 年を記念して、世界社会情勢報告 2023 では、人口高齢化の社会経済的影響について焦点を当てており、世界の高齢化について概要を説明しているほか、健康や寿命、高齢化による経済的影響や世代間の公平、貧困や格差、ケアの危機などについてまとめている。
- **欧州: Dementia in Europe Yearbook 2022: Employment and Related Social Protection for People with Dementia and Their Carers(欧州の認知症年鑑 2022: 認知症当事者とケアラーのための雇用と関連の社会的保護)(1/30、Alzheimer Europe 報告書)**
 - <https://www.alzheimer-europe.org/news/alzheimer-europe-highlights-challenges-employment-and-social-protection-people-dementia> (全文へのリンクあり)
 - 2022 年の年鑑では、認知症当事者やケアラーのための雇用や関連の社会的保護に焦点を当てており、まず背景となる国際的な枠組みや条約などをまとめた後に、各国の政策や戦略を分析している。その結果、認知症当事者の権利は(障害として)明示されている一方、ケアラーの権利はあまり具体的に認識されていないことが分かった。また各国の政策には、大きな違いが見られた。認知症戦略がある国でも、当事者やケアラーの雇用や関連の社会的保護について言及するのは少数だったが、他分野(高齢者、障害、雇用など)の政策でこの課題に対応している国も見られた。国ごとに社会的保護制度の違いはあっても、共通した問題として、複雑すぎる制度の構造や厳しい利用要件、不十分な経済的支援が浮かび上がった。年鑑ではまた、雇用中に認知症の診断を受け

たり関連の社会的保護制度を利用したりした当事者たちの声や、各国の優れた実践例も紹介している。最後に状況改善へ向けて提言を行っており、内容はたとえば、就労継続を希望するケアラーを支える社会的保護制度の柔軟性向上や、給付やサービスへのアクセスに関する情報・助言・支援の充実(読みやすい資料など)が含まれる。

- **欧州: Sex, Gender and Sexuality in the Context of Dementia: A Guide to Raise Awareness amongst Health and Social Care Workers(認知症における性、ジェンダー、セクシュアリティ: 医療福祉職向け認知向上ガイド)** (1/30、Alzheimer Europe 作成のガイド)
 - <https://www.alzheimer-europe.org/news/alzheimer-europe-launches-new-guide-help-raise-awareness-issues-around-sex-gender-and> (全文へのリンクあり)
 - 性、ジェンダーおよびセクシュアリティは、私たちの生活で根幹をなすものであり、近年では、多様なジェンダーアイデンティティや性的指向などについても意識が高まっている。しかし認知症ケアでは、このトピックについて現在も情報が不足し、異性愛や男女二択の考えが中心となっており、それが多様な人びとへのケアにおける差別などにつながりうる。このガイドでは、独居やパートナーと同居する認知症の人びとの経験をとりあげ、性やセクシュアリティに関する差別や偏見などについて浮き彫りにしている。
- **欧州: Guidelines for the Ethical and Inclusive Communication about/Portrayal of Dementia and People with Dementia(認知症や認知症の人に関する倫理的・包摂的な情報発信・描写に向けたガイドライン)** (1/30、Alzheimer Europe 作成のガイド)
 - <https://www.alzheimer-europe.org/news/alzheimer-europe-launches-guidelines-ethical-and-inclusive-communication-about-people-dementia> (全文へのリンクあり)
 - 当事者以外の人々が認知症について語る際、その言葉やイメージは認知症の人すべてについてであるととらえられることが多く、たとえば認知症「に苦しむ人びと」「の患者」などのグループとしてまとめられがちである。このため、認知症について語る際には、そこで用いる言葉やイメージ、発せられるメッセージについて細心の注意を払う必要がある。そこでメディア、研究者、ジャーナリスト、政策立案者など、認知症について情報発信する人たちを対象に、倫理的で包摂的なコミュニケーションに向けたガイドラインが作成された。ガイドラインは 14 項目(例:「発信したい問題について、当事者のフィードバックを求める」、「認知症に関する自らの思い込みに疑問を持つ」)から成り、それぞれについて説明も加えられている。
- **英国: HOPE Policy Brief – Health and place: How levelling up health can keep older workers working(健康と地域に関する HOPE 政策提言: 健康のレベリングアップで高齢者就労継続へ)** (1/13、ILC-UK 提言)
 - <https://ilcuk.org.uk/hope-policy-brief/> (全文へのリンクあり)
 - 英国の全体的な健康寿命は、1991～2011 年に改善したものの大きな地域差が残り、さらに 10 年以上が経過した現在も前進はあまり見られない。政府が掲げた「レベリングアップ」アジェンダでは、2035 年までに平均寿命を 5 年伸ばし、2030 年までに健康寿命の地域格差を縮小することを目指している。しかしそのための具体策は明示されていないほか、コロナパンデミックや生活費の急騰で格差が更に拡大する可能性もある。今回発

表された提言は、2022年10月のHOPEプロジェクト報告に続くものであり、英国政府に対して以下の取り組みを呼びかけている。

- ◇ 予防医療プログラム(地方自治体が提供)への支出を、国の医療予算の6%以上に増やす。
- ◇ レベリングアップのインフラ資金の一部を、「最も不健康」な地域の高齢者に相応しい雇用創出事業へ充てる。
- ◇ 50歳以上の人の健康と地域について毎年データを発表し、モニタリングするほか、2031年にセンサスが確実に行われるようにする。どちらの調査でも、健康と労働市場参加について測定する。

● **アイルランド:Telling It Like It Is, Combatting Ageism(エイジズムのリアル:撲滅に向けて)(1/24、The Alliance of Age Sector NGOs 報告書)**

- <https://www.thirdageireland.ie/%20/about/telling-it-like-it-is-combatting-ageism> (全文へのリンクあり)
- 高齢者セクターNGO 同盟(ASSNGO)が発表したこの報告書では、アイルランドでのエイジズムについて、様々な側面(健康、就労、医療、経済、コロナ対応、メディア、デジタル技術など)での現状や特性、影響などをまとめた上で、エビデンスに基づいた対応策を紹介している。また報告書では随所で高齢者の生の声を載せているほか、最後に以下の通り9項目の提言を行っている。
 - ◇ エイジング・高齢者担当のコミッショナーを設ける
 - ◇ 政府と同盟が共同で主導する認知向上キャンペーンを展開する
 - ◇ エイジングや高齢者のイメージや描写について、メディア等へのガイドを作成する
 - ◇ 既存の年齢差別的な政策や実践を特定および変更する
 - ◇ エイジズムを減らすための教育研修に投資する
 - ◇ 多世代交流を促進する
 - ◇ エイジズムの現状や対応策への理解を深めるために、データ収集に投資する
 - ◇ エイジズムの予防や対応策の開発や実施に向けて、民間セクターを支援する
 - ◇ エイジズムや年齢差別の発見・報告・対応ができるよう、雇用者や従業員の能力を開発する

● **米国:Understanding a Changing Older Workforce: An Examination of Workers Ages 40-Plus(変わりゆく高齢就労者の現状)(2023年1月、AARP 報告書)**

- <https://www.aarp.org/research/topics/economics/info-2023/multicultural-work-jobs-study-2023.html>(全文へのリンクあり)
- <https://press.aarp.org/2023-01-18-Gig-Work-on-the-Rise-Among-Older-Adults-as-Demand-for-Workplace-Flexibility-Grows>
- AARP では 40 歳以上の人を対象に調査を行い、現役で働く人(フルタイム、パートタイム)や求職者の現状および課題についてまとめた。主な結果は、以下の通りである。
 - ◇ ほぼすべての回答者が、仕事を選ぶ上で有意義な仕事内容を重視しているが、コロナパンデミックによって、ワークライフバランスの重要性が増している。
 - ◇ 仕事を選ぶ上で、職場の柔軟性が重要な要素として挙げられる。

- ◇ 仕事を始める前に考慮するトップ要因としては、安定性や給与が挙げられる一方で、仕事を続けるトップ要因では、精神的なウェルビーイングや福利厚生が挙げられる。
 - ◇ 職場のエイジズムは今も存在する、と多くの人が感じており、年齢差別禁止法の強化について大半が賛成している。

- **米国:2023 Tech Trends and Adults 50+(テクノロジーの動向と 50 歳以上の人びと 2023) (2023 年 1 月、AARP 報告書)**
 - <https://www.aarp.org/research/topics/technology/info-2023/2023-technology-trends-older-adults.html> (全文へのリンクあり)
 - AARP は 2022 年秋、50 歳以上の約 3,000 人を対象に、テクノロジー利用に関するオンライン調査を行った。その結果、この年齢層のテクノロジー利用が大幅に増加していることが明らかとなった。たとえばテクノロジーへの平均支出額を見ると、2019 年は 394 ドルだったが 2021 年には 821 ドル、そして 2022 年には 912 ドルへと急増している。また 8 割近くの回答者は、テクノロジーが生活に欠かせない存在になったと述べている。しかし一方で、利用方法が分かりにくいと感じている人や、テクノロジーが高齢層を想定してデザインされていないと感じている人も多く見られた。あらゆる年齢層にとって使いやすいテクノロジーが求められている。

- **米国:More Than a Thousand Nursing Homes Reached Infection Rates of 75 Percent or More in the First Year of the COVID-19 Pandemic; Better Protections Are Needed for Future Emergencies(コロナパンデミックの 1 年目に 1,000 か所を超えるナーシングホームで感染率が 75%以上に: 将来的な緊急事態に向けて保護策改善が必要)(1/19、保健福祉省報告書)**
 - <https://oig.hhs.gov/oei/reports/OEI-02-20-00491.asp> (全文へのリンクあり)
 - コロナパンデミックでは特に、ナーシングホーム入居者の感染が深刻であったため、保健福祉省の監察総監室(OIG)では、2020 年におけるナーシングホームの状況に重点を置いた一連の評価を行うこととした。第 1 弾の報告書では、ナーシングホームのメディケア受給者のうち、2020 年にコロナ感染した(または感染の可能性があった)人の割合が 2/5 にのぼることが示された。今回発表された第 2 弾の報告書では、ナーシングホーム自体に焦点を当て、感染の規模や感染率の高い施設の特性などを分析している。ナーシングホームでは 2020 年春に COVID-19 の感染が拡大し、同年秋には、入居者のリスクが高いと判明した後にもかかわらず、さらに深刻な感染拡大が起きた。1,300 か所を超えるナーシングホームでは、感染率が 75%以上となり、特に営利組織の施設でその割合が大きかった。このように極めて高い感染率となったホームでは、平均死亡率が 20%近くとなり、これは同時期における他のホームの約 2 倍であった。入居者を守り将来的な医療危機へ備えるために、大幅な変革が必要とされている。

- **オーストラリア:Australian Burden of Disease Study 2022(オーストラリア疾病負荷調査 2022) (12/13、Australian Institute of Health and Welfare 報告書)**
 - <https://www.aihw.gov.au/reports/burden-of-disease/australian-burden-of-disease-study-2022/contents/about> (全文やインタラクティブなデータページへのリンクあり)

- Burden of disease(疾病負荷)とは、病気やケガ、早期死亡などによって失われた健康な生存年数であり、その情報は保健政策やサービス計画で大いに参考となる。上記ページからは、220 種類の病気やケガについて最新結果をまとめており、要約を閲覧できるほか、インタラクティブなページでデータをカスタマイズすることも可能。主な結果は以下の通り。
 - ◇ 2022 年に失われた健康な生存年数は 550 万年
 - ◇ 負荷の割合は、早期死亡よりも病気によるものが大きい
 - ◇ 2022 年に負荷の割合が最も大きかった疾病群はガン(17%)
 - ◇ 2022 年の負荷トップ 5 は、冠動脈疾患、認知症、腰痛、COPD(慢性閉塞性肺疾患)、不安症
 - ◇ COVID-19 による負荷は主に死亡(73%)であり、負荷が最も大きかったのは 75～84 歳
 - ◇ 負荷は女性より男性の方が大きい

- **オーストラリア:Stakeholder Toolkit – Connecting older Australians from Diverse Backgrounds with Aged Care Services(関係者向けツールキット:多様な市民を高齢者ケアサービスにつなぐ)(1/13、政府作成のツールキット)**
 - <https://www.health.gov.au/resources/publications/stakeholder-toolkit-connecting-older-australians-from-diverse-backgrounds-with-aged-care-services?language=en> (全文へのリンクあり)
 - 多様な文化や言語の人びとが高齢者ケアサービスを利用できるよう、このツールキットでは主に、高齢者ケア事業者等が利用できる以下 4 種類の翻訳・通訳サービスについて、内容や費用、利用方法などをまとめている。
 - ◇ Translating and Interpreting Service (TIS National): 24 時間の無料通訳サービス。150 超の言語に対応。
 - ◇ Deaf Connect:聴覚障害者向けの無料手話通訳サービス。対面やビデオでのサービス提供。
 - ◇ Different languages, same aged care:無料翻訳サービス
 - ◇ Interpreter Connect:先住民向けの通訳サービス

- **オーストラリア:Aged Care Assessment Quality Framework June 2022 Version 4.1(高齢者ケアアセスメントの質に関する枠組み:2022 年 6 月 Ver. 4.1)(1/17、政府枠組み)**
 - <https://www.health.gov.au/resources/publications/aged-care-assessment-quality-framework?language=en> (全文へのリンクあり)
 - この資料では、高齢者ケアでクライアントを重視した、質の高いアセスメントを担当者が行えるようにするための枠組みを示しており、質の高いアセスメントの原則、それを実践するための主要素、質を管理する上でのモデル、質の評価基準などをまとめている。巻末には自己評価シートやクライアントの満足度調査票も掲載している。

- **オーストラリア:連邦在宅支援プログラムサービスカタログ(1/20)**
 - <https://www.health.gov.au/resources/publications/commonwealth-home-support-progra>

[mme-chsp-service-catalogue?language=en](https://www.mme.gov.uk/mme-chsp-service-catalogue?language=en)

- 上記 URL からダウンロードできるチャートでは、連邦在宅支援プログラム(CHSP)の、様々なサービスが1枚にまとめられ、同国でどのようなサービスがあるか、一目で分かるようになっている。